

文部科学省共同利用共同研究拠点・東京工芸大学・風工学研究拠点

衝撃的な事象による風工学的問題 に関する研究集会

平成 25 年 2 月 15 日、ロシア連邦ウラル連邦管区のチェリャビンスク州付近で衝撃波が発生し、建築物建築物の屋根や窓ガラスに大きな等々に甚大な被害をもたらしました。上空を隕石が極めて高速で移動して爆発的に分裂したことが原因です。このような衝撃的事象は、隕石のみでなく、石油、天然ガス、水素ガスなどの貯蔵施設や化学プラント等での火災、事故による爆発、テロによる爆破事件などでも発生し、爆風圧によって建築物や人体へ甚大な損傷が及ぶことがあります。発生確率は必ずしも高くはありませんが、一端発生した際の周辺への影響は極めて激甚であり、被害は広範囲に及びます。

被害を最小限に留め、減災へつなげるためには、現象の物理的メカニズムの解明、シミュレーション技術の開発などが必要となります。しかし、爆発等の衝撃的事象による爆風圧荷重の評価や被害予測に関する建設工学的、風工学的研究は、必ずしも十分ではありません。

そこで、将来の関連被害低減につなげることを目的として、種々の分野で行われている爆発現象や衝撃波・爆風圧の伝播に関する実験的、解析的研究、あるいはそれらによる構造体の応答解析、衝撃荷重の評価、被害予測等に関する研究の現状を把握し、発展させるため、下記のとおり、研究集会を開催することと致しました。

奮ってご参加いただき、活発なご議論を期待するところです。

記

主 催 東京工芸大学・風工学研究拠点

と き 平成 26 年 2 月 12 日（水）13:00～17:00

と ころ 清水建設技術研究所（東京都江東区越中島 3-4-17）

電話：03-3820-5504

URL：<http://www.shimz.co.jp/about/network/giken.html>

最寄駅：JR 京葉線・越中島駅 2 番出口 徒歩 10 分

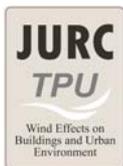
地下鉄東西線・門前仲町 2 番出口 徒歩 15 分

参加申込 参加ご希望の方は、下記の江藤宛 email でお申し込み下さい。

参加費は無料ですが、事前に「お名前」と「ご所属」をご登録願います。

問 合 先 東京工芸大学工学部・建築構造Ⅱ研究室 秘書・江藤美鶴

電話：046-242-9547, Email：etoh@arch.t-kougei.ac.jp



東京工芸大学風工学共同研究拠点 研究集会

衝撃的な事象による風工学的問題に関する研究集会

プログラム（案）

13:30-13:40	開会挨拶，趣旨説明 田村 幸雄（東京工芸大学工学部 建築学科）
13:40-14:10	漏洩水素ガスの爆発実験と解析 武野 計二（豊田工業大学熱エネルギー工学研究室）
14:10-14:40	水素ガス爆発実験による周辺への影響評価 野津 剛（清水建設(株)技術研究所）
14:40-15:10	FronFlow/Red による燃焼、爆発の機能 日比 一喜（株式会社数値フローデザイン）
10 分休憩	
15:20-15:50	次世代交通インフラにおける衝撃的事象の解明と対策 小川 隆申（成蹊大学理工学部システムデザイン学科）
15:50-16:20	爆風と水の干渉による爆風圧減衰効果に関する数値解析 松尾 亜紀子（慶應義塾大学理工学部機械工学科）
16:20-16:50	第三の荷重としての衝撃荷重 濱本 卓司（東京都市大学工学部建築学科）
16:50-17:00	閉会挨拶 田村 幸雄（東京工芸大学工学部 建築学科）
